

風土記の丘の花だより²⁷⁷

今、そしてこれから見られる植物(2025年6月14日)

近畿地方も9日に梅雨入りしましたね。厳密には「したと見られる」ですけどね。山の草木は大喜びでしょう。でも降りすぎないことを願っています。今回は雨に濡れた花を4つ紹介します。



雨が似合う花で、まず思い浮かぶのはアジサイですね。風土記にはピンク色は少ないですが、青や白の花がきれいに咲いています。ご承知のように、花のように見えているのは花ではなく萼で、真ん中のポチッとした小さいのが花です。昔、日本のアジサイがヨーロッパに渡り、そこで品種改良されたものが日本に逆輸入され、更に改良がすすんで、今、私たちは色とりどりの様々なアジサイを楽しむことができます。皆さんはどんなアジサイがお好みですか？



中央の階段を上ると、左側に咲いているアメリカデイゴの真っ赤な花です。今では日本でもお馴染みですが、江戸時代に南米（アフリカとしている本もありますが・・・）から渡来した植物です。国内でもおもに暖かい地方の公園や道路ぞいによく植えられています。変わった形の花ですが、マメの仲間です。別名はカイコウズ「海紅豆」といいます。「デイゴおの花が咲きい♪♪」という歌がありますが、あのデイゴは沖縄など、南の島でよく見かける木で、本種ではありません。もっと背が高くなり、花の色ももっと濃いように見えます。真っ赤な花の次は真っ白なクチナシの花です。とても甘いいい香りがするので、梅雨のジメジメを忘れさせてくれます。この花は花びらが幅広いですが、もっと細いものや、八重咲きのものもあります。この花はきれいです、すぐに黄色く変色してしまいます。晴れた日、クチナシの周りを飛び回るハチみたいな虫がいますが、それはきっとオオスカシバというガでしょう。指ほどもある大きな幼虫には長いしっぽのような突起があり、この木の葉を食べて育ちます。もし見つけてもハチではないので、怖がらないでくださいね。



小さくてチマチマした花ですね。ナツメの花です。ナツメは薬膳料理に使われたり、漢方薬として使われたりするので、実はよく知られていますが、花はこんなに控えめです。これは上のアメリカデイゴの少し下の右側にあります。ナツメは落葉樹で、冬の間は幹と枝だけです。新芽が出るのが少し遅めで初夏の頃なので、「夏芽」となったそうです。もちろんふつうは「棗」という漢字を充てることが多いですね。



いよいよ梅雨。雨もまた良し、ですね。 松下